

平成 29 年度
沖縄振興特別推進交付金

平成 29 年度
関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務
【普天間飛行場】
報 告 書

平成 30 年 3 月
宜 野 湾 市

目次

1. 今年度業務の目的と基本的な考え方	1
1-1. 今年度業務の目的	1
1-2. 今年度業務の基本的な考え方	2
2. 各種合意形成活動の取組み概要と成果・課題	3
2-1. 「若手の会、地権者への取組み」の成果と課題	3
(1) 若手の会の定例会活動支援	3
(2)-1 字別意見交換会の開催支援	10
(2)-2 地主会役員等との意見交換会の開催	14
(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行	16
2-2. 「NBミーティング、市民などへ向けた情報発信の取組み」の成果と課題	20
(1) NBミーティングの定例会活動支援	20
(2) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催	33
(3) まち未来だよりの作成・発行	44
(4) ホームページの更新	47
2-3. 「合意形成に関する各種活動に対する評価・検証の場づくり」の成果と課題	48
(1) 懇話会の開催	48
2-4. 「将来を担う児童・生徒への取組み」の成果と課題	74
(1) 児童・生徒絵画コンクール運営支援	74
2-5. 「先進地視察」の成果と課題	77
(1) 先進地視察会	77
(2) 若手の会・NBミーティング合同勉強会	96
2-6. 今年度の成果と今後の課題	105

1. 今年度業務の目的と基本的な考え方

1-1. 今年度業務の目的

(1) これまでの取組み背景

「普天間飛行場の跡地利用の促進及び円滑化等に係る取組分野ごとの課題と対応の方針についてのとりまとめ」を受けて、「普天間飛行場関係地権者等意向把握全体計画（平成13年度）」が策定された。その後、「跡地利用計画」、「地権者等意向醸成」に関する取組みが進められている。

①跡地利用計画

跡地利用計画については、「跡地利用基本方針、行動計画の策定」、「キックオフ・レポート（土地利用・環境づくり提案）の作成」、「全体計画の中間取りまとめ（素案）作成」、「全体計画の中間取りまとめの策定」という流れで段階的に具体化が進められている。

平成28年度においては、「全体計画の中間とりまとめ」をもとに一部見直しされた「行程計画」を踏まえ、今後の跡地利用計画に向けた取組みの推進に向けた取組みが行われている。また、「普天間公園（仮称）懇談会」では、平成29年3月に「普天間公園（仮称）への提言書」を取りまとめ、この提言を受けて沖縄県と宜野湾市では、普天間飛行場跡地利用計画（素案）策定に向けた検討を進めている。

今後は、「跡地利用計画（素案）」が策定された後、計画内容の具体化に向けた検討を進め、「跡地利用計画」の策定に向けて取り組んでいく。

②地権者等意向醸成

合意形成に向けた場づくり・人づくり・組織づくり等の活動を長期的展望のもとに展開し、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」、「ねたてのまちベースミーティング（以下、NBミーティング）」の組織化等が図られている。

両組織の成熟具合等を勘案しながら、今後は将来的な組織の自立化を促すような取組みに向けて進めていく。

また、各種団体や大学生を始めとする若い世代等と地域全体の連携のもと、協働の取組みが展開されている。

(2) 本業務の目的

今後策定が予定されている「跡地利用計画（素案）」に向け、地権者等意向醸成（本業務）においても計画の具体化に対応した合意形成を展開する必要があることから、今年度においても昨年度に引き続き「全体計画の中間とりまとめ」の内容の更なる周知を図る。

また、「跡地利用計画（素案）」策定後の事業化に向けた対応を見据え、昨年度に引き続き地権者の意向集約に向けた体制づくり、市民に関しては跡地利用への関心向上に向けた体制づくりを進めていく。

1-2. 今年度業務の基本的な考え方

前頁の目的を踏まえ、今年度業務の基本的な考え方と取組み方針は、以下の通りとした。

【今年度業務の基本的な考え方と取組み方針】

基本的な考え方	取組み方針
1) 地権者に対して	
中間取りまとめの内容の更なる周知	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会等の場での説明。 ・跡地利用に関する継続的な情報発信を行い、内容の周知と跡地利用に対する機運を高める。
返還後の事業化を見据えた、地権者の意向集約に向けた体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・若手の会の定例活動の充実及び自主活動による会の活性化。 ・地主会と若手の会との連携強化。 ・若手の会及びNBミーティング合同での勉強会や先進地視察会等の継続実施による組織間の連携強化と議論の深化。
2) 市民等に対して	
市民の関心の向上に向けた取組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な市民の意見集約が出来る、対外的な取組みの実施。 ・市民の関心事項の把握と、それを踏まえたNBミーティングの検討、市民への情報発信。 ・対外的な取組みにおけるNBミーティングの主体性の向上と市民への関心の啓発。
3) 今年度の取組みの評価及び検証	
継続した懇話会 [※] の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施。 ・若手の会、NBミーティング両組織の活動を進めていく中で、の課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

※「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」

「全体計画の中間とりまとめ」の更なる周知を図り、地権者及び市民の跡地利用に対する機運を高めていくとともに、地権者に対しては、若手の会を核とした組織強化と跡地利用計画に関する検討の深度化を図り、今後の事業化を見据えて地権者意向集約に向けた体制づくりに取り組む。

市民に対しては、跡地利用に対する関心向上に向けて、継続的な情報発信を行う事とあわせ、市民側の跡地利用を検討する組織であるNBミーティングの主体性の向上を図る。

また、今年度業務の評価・検証の場として、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下、懇話会）」を継続して実施する。

2. 各種合意形成活動の取組み概要と成果・課題

2-1. 「若手の会、地権者への取組み」の成果と課題

取組み方針①：跡地利用計画（素案）に対する若手の会としての提言事項を検討、取りまとめを行う。

取組み方針②：若手の会の自主活動による会の活性化を図る。

取組み方針③：地主会と若手の会との連携強化。

(1) 若手の会の定例会活動支援

1) 取組みのポイント

跡地利用計画（素案）に対する提言事項を検討する際、事前に十分な知識や事例を習得した上で、まちの使い手としての意見を提言する。

また、将来的な会の自立化に向けて自主活動の活性化を図っていくため、自主活動の中で会のあり方や組織体制に関する検討を行った。

2) 取組みスケジュール

①定例会

No	開催日	主な活動内容
1	4月11日	・これまでの先進地視察から普天間飛行場跡地利用に活かせること
2	5月9日	・今年度の若手の会の活動・検討テーマについて
3※	6月13日	・過去の提言内容（公園、交通、住宅地、振興・都市拠点）及び今年度の活動目標について
4※	7月11日	・普天間公園（仮称）に関するこれまでの検討経緯
5	8月8日	・大規模公園がもたらす波及効果について
6※	9月12日	・先進地視察会の事前学習 ・大規模公園のあり方について

No	開催日	主な活動内容
7	10月10日	・大規模公園のあり方について
8※	11月14日	・先進地視察会について（報告会） ・講師招聘による勉強会について ・字別意見交換会について
9	12月12日	・大規模公園を検討する上で必要な視点とポイントについて
10※	1月16日	・大規模公園のメリット、デメリット
11	2月13日	・若手の会の考える大規模公園のあり方について
12※	3月13日	・今年度のとりまとめ ・次年度の取組みについて

※は、本業務内で支援を行った定例会

②自主会

No	開催日	場 所	主な活動内容
1	4月25日（火）	大山公民館	・若手の会参加人員 ・会の新体制
2	6月27日（火）	大山公民館	・出前意見交換会の具体的内容について ・若手の会の体制、役割の細分化について
3	9月23日（土）	神山郷友会館	・大規模公園のあり方について
4	1月9日（火）	宜野湾市役所別館 1階職員厚生室	・大規模公園のメリット、デメリット
5	1月24日（水）	宜野湾区公民館	・字別意見交換会の発表内容について
6	1月30日（火）	大山公民館	・字別意見交換会の発表内容について
7	3月8日（木）	宜野湾ベイサイド 情報センター2階	・「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」との意見交換会



写真：定例会のようす①



写真：定例会のようす②



写真：自主会のようす①



写真：自主会のようす②



写真：那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会との意見交換会のようす①



写真：那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会との意見交換会のようす②



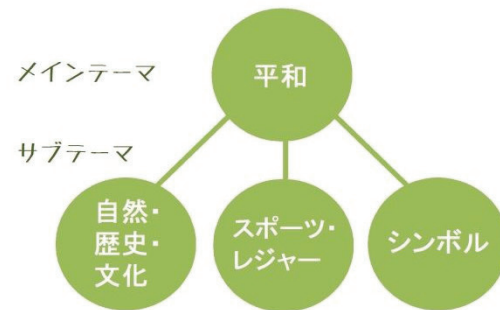
1. 検討に至るまでの背景

普天間公園(仮称)懇談会は、平成 29 年 3 月に「普天間公園(仮称)への提言書」を取りまとめた。この提言を受け、沖縄県と宜野湾市は、普天間飛行場跡地利用計画(素案)策定に向けた検討を進めている。そのため、年度当初に若手の会定例会の中で挙げた検討テーマの「公園」、「交通」、「都市基盤」の中から、まず「公園」について議論の深度化を図り、会としての考えの見直しを行っていく方向性となった。なお、他分野に関する意見は次年度以降の検討の際、改めて議論する事となった。

2. 若手の会のこれまでの公園づくりの考え方

①メインテーマを「平和」とし、まちと公園が連動するまちづくりを目指す。

- ・メインテーマを平和とし、「普天間飛行場返還記念公園」を理念として位置付ける。
- ・また、その「平和」をメインテーマとしつつ、その要素を取り入れた「自然・歴史・文化」、「スポーツ・レジャー」、「シンボル」をテーマに、まちと公園が連動する公園(ネットワーク型)とし、市民・県民・県外からの観光客等の誰もが魅力を感じる公園とする。



②配置は、一定のまとまりを確保し、その他の帯状緑地を繋げ「ネットワーク型」の公園を目指す。

- ・他のゾーンと一体的な整備が可能となり、集客にも繋がる。また、跡地内や周辺の緑地といった地域資源の活用にも繋がる。

③運営方法は、「国営公園」を目指す。

※規模については、以前は緑地を含め 150ha 程度としていたが、若手の会としての考えを再度議論していく。(将来の人口減少が確実な中、150ha 規模の必要性があるのか等)

3. 検討の視点

「地権者側の組織」として、

- ①大規模公園がどうあるべきか
- ②大規模公園の整備による地権者のメリット、デメリットは何か
- ③どのように大規模公園に関わっていく事ができるか

あくまで地権者目線で検討し、取りまとめた考えを元に地権者と意見交換を行う事により、更なる内容の深化を図るという考えでこの3つの視点を設定した。

4. 平成 29 年度の活動内容

上記検討の視点を持った上で、平成 29 年度は以下の活動を行い、大規模公園に関する検討を進めていった。

定例会(計 12 回)、自主会(計 6 回)の開催

字別意見交換会での説明、地権者との意見交換(計 3 回)

先進地視察会の実施(国営木曾三川公園他 2 箇所)

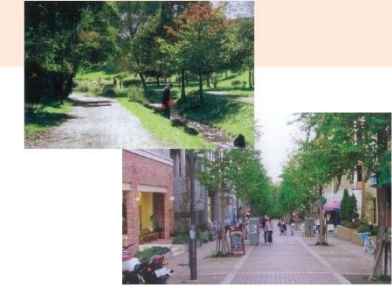
視察では「多様な拠点のある国営公園」をテーマの 1 つと設定し、国営木曾三川公園を視察した。大規模公園のありか、地権者及び市民の関わり方等、参考となる話を伺う事ができた。また、より理解を深めるため、公園視察前日に国土交通省から講師を招聘し、国営木曾三川公園の背景や事業概要について講義を受けた。

5. 若手の会の考える大規模公園のあり方

①大規模公園のあるべき姿

緑の中のまちづくり

- ・公園がまち全体を包み込み、そこで暮らす人々の生活・コミュニティを繋ぐ役割を担う手段の 1 つとしてあるべき。
- ・学校や図書館等、様々な施設が緑の中にあり、日常的に緑豊かな環境で生活できるまちづくりの一翼を担う。
- ・歩道と車道が交差しないよう、歩車分離を徹底する。



【写真上:くさぶえの道、写真下:仲町台駅前商店街】共に港北ニュータウン。横浜市ホームページより転載。転載元 URL:

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/nt/>

②大規模公園の整備による地権者のメリット・デメリット

◆メリット

- ・自分の土地の目の前に緑豊かで良好な景色が広がる
- ・歩道と車道が分かれている事で、小さな子供でも安心して遊びに行かせる事ができる

- ・日常的に緑の中で生活できる。
- ・鉄軌道が整備された場合、駅から車道を通らずに、歩いて色々な施設やまちの中を行き来できる。
- ・車と歩行者の動線が交わらないため、渋滞の緩和にも繋がる。
- ・子供の教育、遊びの場として活用できる。

また、大規模公園の整備により得られる効果としては、

- ・資産価値の向上、まちの魅力向上につながる
- ・都市の潤い(宜野湾市の潤い)となる
- ・交通アクセスの整備と合わせて利便性が向上する
- ・防災性の向上、災害時の避難場所として活用可能



【港北ニュータウン(神奈川県横浜市)における歩車分離】「2013 横浜わが街シリーズ」より転載。転載元 URL:<http://tadkawakita.blogspot.jp>

◆デメリット

- ・利用者の安全や良質な環境を維持するため、公園の管理・整備に多大な費用がかかる
- ・公園用地取得の際に、土地を売りたいくない地権者に対して売却依頼があるのではないかと

③メリット実現のため、地権者としての関わり方は…

- ・住民参加型の「皆で育てていく公園」とするため、将来的にどういう公園にしたいか、地権者として維持管理も含めしっかりと考える必要がある。(平成 24 年度若手の会自主会による意見)
- ・自分達が理想と考える公園(緑の中のまちづくり)を実現させるため、計画段階から公園の活用方法等検討を行う。

「地権者であり公園の利活用者」として、大規模公園を「計画し、育てる」

6. 今後、若手の会として行う事

- ・大規模公園について、地権者として何に関わっていく事ができるか検討を進め、引き続き提案を行う。
- ・大規模公園以外の分野についても、引き続き地権者としての立場で検討を進め、現在検討が進められている跡地利用計画に対して提案を行う。
- ・地権者に対しての意向醸成、啓発及び自由な意見交換の機会を創出する。

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●大規模公園について検討の深度化を図り、若手の会としての提言事項を取りまとめる事ができた。

- ・跡地利用計画の各分野の中から、今年度は大規模公園に関する過去の検討経緯及び現時点における検討状況を知識として習得し、先進地視察会で先進事例を実際に体感した上で検討を行った事により、地権者として及びまちの使い手としての考えを具体的に盛り込んだ提言とする事ができた。

●自主的に会のあり方や組織体制に関する意見交換を行う事ができた。

- ・今後の会のあり方や組織体制、会員獲得方法等について自主的に意見交換を行う事ができた。

【今後の課題】

●公園以外の分野についても、引き続き若手の会としての提言事項を取りまとめ、提言する必要がある。

- ・本調査においては、大規模公園に関する検討を1年かけて取りまとめたが、今後の跡地利用計画（素案）に対して地権者側の組織である若手の会としての提言事項を取りまとめ、継続して発信していく事が必要である。

●組織体制、組織拡大のための取組み方策について継続して検討する必要がある。

- ・自主会の場で、会のあり方や組織体制、会員獲得方法等についての意見交換は行ったが、まだ方向性が確定していない事から、将来的な会の自立化に向けて今後も引き続き継続して検討する必要がある。

●地主会との連携をより強化していく必要がある。

- ・若手の会の自主活動の一環で、平成26年度より地主会三役との意見交換会を行っていたが、今年度も地主会との日程が合わないため実施できなかった。また、自主活動で若手の会が各字を訪れて意見交換を行う予定としていたが、受入先との日程が合わない事等から実現できなかった。今後も自主活動の中で進めていくよう促していくと共に、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく事が必要である。

(2) - 1 字別意見交換会の開催支援

1) 取組みのポイント

今年度は、若手の会で検討した大規模公園に関する提言事項、跡地利用計画策定に向けた取組みの一環としてプロモーションビデオの視聴を行い、跡地利用計画に対する興味及び若手の会の活動に対する地権者の期待を促した。

また、小テーブル形式での意見交換とし、これまでの説明会形式よりも意見を言いやすい雰囲気づくりで実施した。

2) 実施概要

○開催日：平成 30 年 2 月 10 日（土）、11 日（日）、17 日（土）

○内 容：（1）普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告

1) 若手の会の活動紹介と、「公園検討の深度化」に関する報告

2) 質疑応答、意見交換

（2）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組みについて

1) プロモーションビデオの視聴（平成 28 年度）

2) 質疑応答、意見交換

表：「字別意見交換会」の開催日時、会場、参加者数

開催日時	会 場	参加者数
平成 30 年 2 月 10 日（土） 18：00～19：30	宜野湾市社会福祉センター	15 名 (6 名)
平成 30 年 2 月 11 日（日） 14：00～15：30	宜野湾市社会福祉センター	8 名 (2 名)
平成 30 年 2 月 17 日（土） 18：00～19：30	宜野湾マリン支援センター	16 名 (6 名)
合計		39 名 (14 名)

※（参加者数について）上段：参加者総数

下段：参加者総数の内、若手の会からの参加者



写真：字別意見交換会のようす①



写真：字別意見交換会のようす②

3) 主な質問と回答

① 1日目

- 開催日時：平成 30 年 2 月 10 日（土） 18：00～19：30
- 開催場所：宜野湾市社会福祉センター
- 出席者数： 15 名（若手の会 6 名）

質問・意見	大規模公園という考え方は非常に良いが、国などの協力を得て整備する事が現実的に可能なのか。
回答	国の協力を得るには地権者の意向を聞き、取りまとめて要望していく必要があるため、地権者が普天間飛行場跡地をどのようなまちにしたいかを考えて頂き、中間取りまとめに対しての意見を頂きたい。
質問・意見	大規模公園に賛成であるが、私の土地に将来子や孫のため家を建築したいと考えているため、住宅地として土地を残したい。
質問・意見	跡地利用計画はいつ策定されるのか。
回答	総合計画における普天間飛行場の返還期日（2022 年（平成 34 年）またはその後）に合わせ、2022 年（平成 34 年）の跡地利用計画策定予定である。

② 2日目

- 開催日時：平成 30 年 2 月 11 日（日） 14：00～15：30
- 開催場所：宜野湾市社会福祉センター
- 出席者数： 8 名（若手の会 2 名）

質問・意見	大規模公園は誰が管理する事を想定しているのか。
回答	国営公園となった場合、国が管理する事になる。 国営公園としての位置づけは決定事項ではないが、現時点での若手の会の考えは国営、地主会としても国営を要望するとしている。
質問・意見	果たして本当に大規模公園の必要瀬があるのか。国が 100ha 規模の用地を購入するだけのメリットがあるのか。
回答	若手の会としては、大規模公園というよりは、緑の中のまちというイメージで検討している。
質問・意見	シンガポールの事例のように、大規模公園があり、その周りに高層ビルが建ち並んでいるイメージならば良い。

質問・意見 地権者の合意が最終的にネックになると考えられるが、今後の計画実現に向けて合意形成をしっかりと行っていく必要がある。多くの地主が参画できる取組みを行って頂ければと考える。

③3日目

○開催日時：平成30年2月17日（土）18：00～19：30

○開催場所：宜野湾マリン支援センター

○出席者数：16名（若手の会6名）

質問・意見 大規模公園の維持管理費について、税金の負担とならないのか。

回答 市民の負担にならないよう、国営公園としての要望を行っている。

質問・意見 国営ならば、採算性がないと市の負担になりかねないのでは。採算が取れる事を前提として大規模公園を検討する事が必要である。

質問・意見 国営公園の場合、公園用地は買い取りになるのか借地になるのかどちらか。買い取りになる場合は、地権者の合意形成が上手くいかず、計画がとん挫しないか。

回答 国による用地の先行取得で、地権者の負担を軽減させていければと考えている。

質問・意見 土地区画整理事業で整備される公園と大規模公園はどう異なるのか。

回答 土地区画整理事業では減歩により公園用地を生み出すが、大規模公園は国営を想定しているため用地の先行取得で公園用地を確保する事が考えられる。

質問・意見 地権者としての負担軽減に繋がるため、その考え方は賛成である。しかし、本当に大規模公園を整備する事により経済的価値が上がるのか。

回答 大規模公園の整備に伴い、国際的な企業の誘致や産業の創出に繋がるものと考えている。

質問・意見 米軍接收により周辺地域に追いやられた人達のためにも、普天間飛行場跡地だけではなくその周辺も含めたまちづくりを進めていくべきである。

回答 周辺市街地整備との連携の方針として中間取りまとめに謳われている。具体的な計画は今後の話となる。

4) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

- 地権者に対し跡地利用計画に関する内容等の情報を発信すると共に、活発な意見交換を行う事ができた。
- ・参加した地権者に対し、若手の会で検討した大規模公園に関する提言事項を発信すると共に、跡地利用計画策定に向けた取組み状況の情報発信ができた。合わせて、小テーブル形式での意見交換の場を設けた事により、これまでよりも活発な意見交換となった。

【今後の課題】

- 参加者を増やすための工夫、参加しやすい雰囲気づくりを継続して検討する必要がある。
- ・今年度は、過去に実施してきた字別意見交換会の中で最も参加人数が少ない結果となった。参加者をより多く集めるために大規模な会場で開催したが、その事がかえって参加者を減少させる要因となったものと推察される。そのため、次年度以降は、公民館等小規模な会場での開催を復活させる等、選定会場を改めて検討する必要がある。
- ・参加者を増やすため、開催前の周知方法について、ふるさと以外での周知方法を検討する必要がある。

(2) - 2 地主会役員等との意見交換会の開催

1) 取組みのポイント

地主会役員としての意向を踏まえた上での字別意見交換会とするため、字別意見交換会における若手の会からの報告に先立って、地主会役員等を対象とした意見交換会を実施した。

2) 実施概要

○開催日：平成 30 年 2 月 7 日（水）19：00～20：00

○内 容：（1）普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告

1) 若手の会の活動紹介と、「公園検討の深度化」に関する報告

2) 質疑応答、意見交換

（2）普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組みについて

1) プロモーションビデオの視聴（平成 28 年度）

2) 質疑応答、意見交換

○参加者：22 名（地主会役員等 9 名、若手の会 9 名、地主会事務局 4 名）



写真：意見交換会のようす①



写真：意見交換会のようす②

3) 主な質問と回答

質問・意見	大規模公園という事であるが、何 ha の公園を想定しているのか。大規模公園に関するメリットとデメリットについて、意見交換会当日は具体的に聞いて頂きたい。企業誘致について、誘致される企業は県外の大企業と想定されるが、どのような企業を誘致できそうなのか検討されてはいかがか。
回答	緑地も含めて 150ha と宣言していた時期もあったが、現時点では 30ha という意見も会の中で挙がっている。
質問・意見	面積が少なくなったという事は、国営公園の指定が無理という事か。
回答	若手の会からの意見の 1 つであり、会としての取りまとめはこれからである。
質問・意見	30ha で国営公園は難しい。当初は 150ha の大規模公園で国営を目指すという話であった。早く大規模公園の面積や内容について集約頂きたい。
回答	沖縄県の事業で行われた大規模公園に関する懇談会において、国営公園を目指す上での提言がなされている。また、国営公園が無理ならば県営という意見も若手の会の中ではある。
回答	地主会としては、まちづくりを行う上で地権者のメリットとして周辺環境を良くしようという考えから、歴史文化の保全も含めた 100ha の国営公園を要望した。100ha という話については現在も跡地利用計画の中で議論中であり、決定事項ではない。

4) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●若手の会の提言事項に関する情報共有が図られた。

- ・地主会役員等に対し、若手の会で検討した大規模公園に関する提言事項を発信すると共に、跡地利用計画策定に向けた取組み状況の情報発信ができた。
- ・地主会役員等からの意見を踏まえ、字別意見交換会における説明資料を修正した事により、地主会役員としての意向も踏まえた内容として字別意見交換会に臨む事ができた。

【今後の課題】

●地主会との連携をより強化していく必要がある。

- ・今回は字別意見交換会前に開催したが、今後は定期的な意見交換の開催や、地主会役員等との共同による説明会や意向醸成に係る取組みを行うなど、地主会役員等との連携をより強化していく事が求められる。

(3) 地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

1) 取組みのポイント

地主会未加入者も含めた地権者に対し、跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」の発行を行った。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第46号	平成30年1月	○告知事項 ・字別意見交換会開催のお知らせ ・若手の会参加者募集のお知らせ ○報告・紹介事項 ・先進地視察会の概要報告
第47号	平成30年3月	○報告・紹介事項 ・字別意見交換会の概要報告 ・若手の会活動内容の紹介 ・普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオの周知

視察会の中で、合同勉強会を開催しました

若手の会とNBミーティングの組織間連携強化や、立場が異なる中で意見をそれぞれの検討に活かす事を目的として、先進地視察会の中で若手の会・NBミーティング合同勉強会を開催しました。
【講師】 国土交通省中部地方整備局建設部公園調整官 空閑 三生 氏
【テーマ】 国営木曾三川公園事業について

【概要（ポイントのみ）】

- 公園については大きく「応接間としての公園」、「リビングとしての公園」の2タイプに分かれる。「応接間としての公園」は、外国や国内からの観光客等をおもてなしする公園。「リビングとしての公園」は、地域の人達や誰もが訪れて楽しめる公園。
- 国営ひたち海浜公園（茨城県）では、公園の方向性を「リビング」から「応接間」に転換し、他では見ることのできない景色をつくるよう意識した事で、現在年間200万人の来園者となっている。
- 国の維持管理費だけで立派なものではない。整備時点からボランティアと連携する事により様々な取組みが実施できる。
- 人が集まる公園を作るためには、整備してからは難しく、利用者の事を意識して公園を検討していく必要がある。
- 公園の活用方法については、市民など管理者側でない所にボールを持たせて、最初から計画に組み込んでいく事が良いと考える。



合同勉強会の様子

視察会参加者からの感想（一部抜粋）

【大規模公園に関する内容】

- 先に公園の計画図を作成するのではなく、利用者の目的を聞いてから作成する方がスムーズに進むと感じた。「目的に合わせた公園づくり」が重要である。
- まず地権者としてのスタンスを明確にし、その上で何をしたいのかははっきりさせる必要がある。
- ネットワーク型の公園が「つながる」効果について、理想論でも良いので今後検討したい。

【組織づくりに関する内容】

- 地域住民や会員などの仲間づくりが大切で、学生や大学などと協力して輪を広げていく事で市民に熱意を感じてもらえる事が重要である。
- 「大学は大事」という説明が印象に残っている。大学では毎年新しい人が入ってくる。我々（若手の会やNBミーティング）と大学、お互いが利用し合える関係づくりが最初の課題と考える。
- できる事からまずやる。できない事はお願いする。持続が大切である。
- 参考になったのは「アジャイル」となる活動地点が、各々のNPO法人に存在する事である。また、毎年同じ時期に同じイベントや講習会が開催されているため、市民に認知してもらいやすい事も参考になった。
- 子どもが遊べる公園には親がついてくるので、必然的に家族で公園を利用する事になる。また、子どもだけが利用したとしても、親がその存在を知る事になるので、アクションを起こすには子ども達と行うイベントが良いと考える。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行元】

宜野湾市役所 基地政策課 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野高一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策課まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望、ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。



ふるさと

vol.46

2018 January
発行
宜野湾市基地政策課まち未来課

字別意見交換会を開催致します

地主の皆様を対象に、昨年に引き続き下記日程及び内容で「字別意見交換会」を開催致します。

字別意見交換会では、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」から会の活動紹介と平成29年度の活動概要、大規模公園に関する若手の会の考えを紹介後、意見交換を行います。また、普天間飛行場跡地利用計画の策定状況についてのご報告（プロモーションビデオの放映）を致します。

開催日	時間	会場
2/10(土)	午後6時～7時30分	宜野湾市社会福祉センター（赤道）
2/11(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市社会福祉センター（赤道）
2/17(土)	午後6時～7時30分	宜野湾マリンスポーツセンター（大山）

◆字別意見交換会の内容

- 1) 普天間飛行場の跡地を考える若手の会からの報告
1) 若手の会の活動紹介と平成29年度の活動概要
2) 若手の会の考える大規模公園のあり方
- (2) 質疑応答、意見交換
- (3) 普天間飛行場跡地利用計画について
プロモーションビデオの放映(平成28年度)



昨年度の字別意見交換会の様子
(於：農協会館)

※どの開催日でも内容は同じですので、皆様のご都合の良い時に合わせてお気軽にご参加下さい。

「若手の会」の参加者を募集しています！

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。（毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて）地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.46(表面)

普天間飛行場の跡地利用に向けて先進地視察を実施しました

若手の会と「わたのまちベースミーティング（市民側から跡地利用を考える組織。以下、NBミーティング）」は、まちづくりの先進情報の収集・蓄積と、跡地利用に関する議論の深化などを目的として、先進地視察を実施しています。今年度は、「多様な拠点（テーマ）のある国営公園」と「活発なまちづくり活動団体」の2つをテーマとして、愛知県と滋賀県を訪れました。

【日程】
平成29年10月26日（木）～28日（土）

【視察テーマ及び視察先】

- ◆多様な拠点（テーマ）のある国営公園
視察先：国営木曾三川公園（愛知県、岐阜県、三重県）
- ◆活発なまちづくり活動団体
視察先：NPO法人なごや東山の森づくりの会（愛知県）
NPO法人彦根景観フォーラム（滋賀県）

NPO法人なごや東山の森づくりの会（愛知県）

【特徴】
名古屋市と協働で「なごや東山の森づくり基本構想」を策定し、毎月定期的に多様な取組みを行政、企業や市民等と活発に行っている組織です。



座学の様子



東山公園の様子

【組織の概要】

- 名古屋市内に位置する東山公園、平和公園で里山保全の管理活動を行っている組織で、平成27年にNPO法人格を取得しています。
- 昭和50年代から自然調査活動や観察会等、市民が主体となって様々な取組みを行い、行政と協働で「なごや東山の森づくり基本構想」を策定しています。
- 事業活動は班・部で構成され、会員数は現在約170人です。毎月定例の森づくり活動に加え、各班・部の自主活動も行っています。

【視察で学んだ事】

- 組織としての継続した活動、活動成果の発信の重要性を改めて学ぶ事ができました。また、継続した活動を行うために必要な体制のあり方や、現在組織が抱える課題等、若手の会やNBミーティングの今後の活動にも密接に関係する話について、色々と伺う事ができました。

国営木曾三川公園（愛知県、岐阜県、三重県）

【特徴】

3県（愛知県、岐阜県、三重県）にまたがる日本一大きな国営公園で、河川沿いの拠点それぞれについて設定されたテーマに基づき整備された、多様な顔を持つ公園です。



国営木曾三川公園の様子

【概要】

- 木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川のオープンスペースとその周辺の自然を活用して整備された国営公園で、約6,100haの計画面積の内、現在約287.7haが開園しています。
- 地域の歴史文化に関する学習プログラム（公園ガイドボランティア会による学習支援）や、国営・県営・市の水産研究所、高速道路ハイウェイアシスから成る複合公園（年間400万人が来園）など、多様な公園利用のあり方がなされています。
- また、公園の整備計画段階から市民団体との協働の取組みを継続して実施している拠点では、年々来園者が増加しており、平成19年度（初年度）は20万人でしたが現在では100万人を超えています。

【視察で学んだ事】

- 訪れた拠点の内、複合公園部分について、国営部分は環境教育に関する各種プログラムを実施し、県営部分は商業施設を設けるなど、多様な公園の使い方を学ぶ事ができました。
- 市民団体と協働で各種イベントを継続的に実施し、来園者が年々増加している事から、協働による計画づくりの重要性を学ぶ事ができました。

NPO法人彦根景観フォーラム（滋賀県）

【特徴】

大学との連携を始めとし、多様な団体とタイアップしながらまち並み保全のための取組みを行っている組織です。



彦根のまち並み

【組織の概要】

- 彦根城下町のまち並み景観を市民で考え、守り、育て、活用していくという考えの下、発足した組織です。
- 大学の研究室が組織の出発点でもある事から、現在も大学や各種団体等との連携が継続してなされています。

【視察で学んだ事】

- 大学や各種団体等と密接に連携して活動する事で得られる効果とその重要性について、学ぶ事ができました。
- 会員を増員していくための工夫について話を伺う事ができ、若手の会やNBミーティングにおける今後の活動の参考となりました。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.46(中面)

字別意見交換会で頂いたご意見、ご質問 (続き)

跡地利用計画に関するご意見、ご質問と回答

中間とりまとめ配置方針図に記載されている「振興拠点ゾーン」に誘致される企業としては、具体的にどういった企業を想定されているか。

米軍接收により普天間飛行場の周辺地域に住まわざるを得なくなった方々のためにも、普天間飛行場跡地だけではなくその周辺も含めたまちづくりを進めていくべきである。

跡地利用計画の検討には、皆様のご意見がとても重要です。今後も継続して意見交換が行える場づくりを行っていきますので、地権者の皆様には積極的にご参加下さいますようお願い致します。

※ 字別意見交換会より
(※: 社会福祉センター・マリン支援センター)

現時点では、サイエンスパークのように研究施設等が集約されるイメージを想定しています。しかし具体的な企業の検討等については、今後の話となります。(宜野湾市)

全体計画の中間とりまとめにおいて、周辺市街地整備との連携の方針として記載されていますが、具体的な計画は今後の話となります。(コンサルタント)

普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオが公開されています

沖縄県ホームページやyoutubeから、沖縄県と宜野湾市が共同で制作している普天間飛行場跡地利用計画に関するプロモーションビデオが視聴できます。ぜひ一度ご覧下さい。

平成28年度作成の跡地利用計画プロモーションビデオ(南側エリア)QRコードです。



これはひとつのイメージであり、決定した計画ではありません。

「若手の会」の参加者を募集しています!

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。(毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて) 地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

大規模公園に関するご意見、ご質問と回答

大規模公園という考え方は非常に良いが、国や県の協力を得て整備する事が現実的に可能なか。

どこに配置するのか決定しているのか、また、誰が管理するのか。

土地区画整理事業で整備される公園と大規模公園の違いは何か。

【地権者支援情報誌「ふるさと」発行日】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口(宜野湾市基地政策部まち未来課)でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご利用ください。

vol.47 3月 2018 March 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に係る最新情報をお伝えします。

字別意見交換会を開催致しました

地主の皆様を対象として、下記日程で「字別意見交換会」を開催致しました。今回は3回に分けて開催し、小テーブルに分かれて意見交換を行いました。

開催日	時間	会場
2/10(土)	午後6時～7時30分	宜野湾市社会福祉センター(赤道)
2/11(日)	午後2時～3時30分	宜野湾市社会福祉センター(赤道)
2/17(土)	午後6時～7時30分	宜野湾マリン支援センター(大山)

字別意見交換会では、まず「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」から、平成29年度の活動概要及び検討内容について報告がなされた後、意見交換を行いました。その後、普天間飛行場跡地利用計画プロモーションビデオの視聴を行いました。

※ 字別意見交換会より
(※: 社会福祉センター)

「若手の会」の参加者を募集しています!

「若手の会」は、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けた地権者の検討組織として活発に活動しており、毎月1回定期的に会合を開催しています。(毎月第2火曜日の午後7時30分より宜野湾市役所にて) 地権者や地権者のご家族であればどなたでも「若手の会」のメンバーとなることができます。本会の活動に興味・関心のある方は、宜野湾市まち未来課までご連絡下さい。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.47(表面)

若手の会の活動内容をご紹介します

1. 若手の会とは

「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」(以下、若手の会)は、普天間飛行場返還前の早い段階から跡地利用について考えておいた方がよいという地主会等からの期待・要請を受け、平成14年に発足した「地主側の組織」です。

地権者として跡地利用に対する意見を行政・地主会・地権者へ発信・提案し、普天間飛行場跡地のより良いまちづくりを実現する事を活動の目的とし、毎月第2火曜日の夜7時30分から2時間程度、宜野湾市役所意見交換等の定例会活動を行っています。

2. 若手の会の平成29年度活動内容

(1) 定例会、自主会
平成29年度は大規模公園について、過去の検討内容も踏まえた上で改めて検討内容の深度化を行いました。また、定例会に加え、自主会を計6回開催し、大規模公園に関する検討の補足と、若手の会の組織のあり方等について意見交換を行いました。

(2) 先進地視察会
平成29年10月に、まちづくりの先進事例として愛知・岐阜方面を訪れ、大規模公園とまちづくり活動団体の視察を行いました。

(3) 対外的な場での情報発信、意見交換
今年は字別意見交換会で、大規模公園をテーマとした若手の会の考えのまとめを発表し、地権者の皆様と意見交換を行いました。(現時点のまとめについては、「3. 若手の会の考える大規模公園について(概要)」をご参照下さい。)

また、那覇軍港の地主子息等から構成される、「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」メンバーと意見交換会も行いました。

3. 若手の会の考える大規模公園について(概要)

定例会や自主会、先進地視察会等を踏まえ、大規模公園に関する検討を若手の会として進めていきました。その概要について、ご紹介します。

(1) これまでの若手の会の公園づくりの考え方

① メンテナンスを「平和」とし、まちと公園が運動するまちづくりを目指す。

・ 普天間飛行場返還後も、「かつて普天間飛行場が存在していた」という歴史的事実を後世に伝え、平和の発信地となる公園を目指します。また、宜野湾市固有の自然・歴史・文化資源を保全・活用しつつ、スポーツやレジャー等様々な活動が可能な、誰かが魅力を感じる公園を目指します。

② 配置は、一定のまとまりを確保し、その他の带状緑地を繋げ「ネットワーク型」の公園を目指す。

・ 地域固有の文化財などの歴史・文化資源や、斜面緑地及び鍾乳洞等を緑地とする事により保全を図る事と合わせ、一定規模の公園と带状緑地を繋げる「ネットワーク型」とする事により一体的な空間形成が可能となり、公園周辺の様々な施設とも繋がる事が可能となります。

③ 運営方法は、「国営公園」を目指す。

・ 普天間飛行場返還の記念・シンボルとして整備を行うにあたっては、国家的な記念行事として位置づけ国営公園として整備する事が望ましく、地権者の負担軽減にも繋がる事と考えます。

(2) 若手の会の考える大規模公園について(概要)

1) 大規模公園のあるべき姿

緑の中のまちづくり

- 公園がまち全体を包み込み、そこで暮らす人々の生活やコミュニティを繋ぎます。
- 学校や図書館等、様々な施設が緑の中にあり、日常的に緑豊かな環境で生活できます。

2) 大規模公園の整備によるメリット・デメリット

【メリット】

- 目の前に緑豊かな景色が広がる
- 歩道と車道が分かれているため、安全である(右図参照)
- 資産価値の向上につながる
- 都市の潤い(宜野湾市の潤い)となる
- 交通アクセス整備と合わせて利便性が向上する

【デメリット】

- 整備後の維持管理に多大な費用がかかる
- 土地を売りたい人に対しても、公園用地取得のための売却依頼の可能性はある

グリーンマッドックスを基盤に緑化を活かした車歩分離のまちづくり

右図：港北ニュータウン(神奈川県横浜市長)における歩車分離イメージ
転載元 URL: <http://taokawakita.blogspot.jp>

(3) メリット実現のための、地権者としての関わり方

「地権者であり土地の利活用者」として、大規模公園を「計画し、育てる」

- 住民参加型の「皆で育てていく公園」とするため、将来的にどのような公園にしたいか、しつかりと考える必要があります。
- 緑の中のまちづくりを実現させるため、公園の計画段階から活用方法を検討する必要があります。

※あくまで平成30年3月時点における若手の会独自の考えであり、今後の検討により内容は変わっていきます。

4. 若手の会の今後の取組み

若手の会は地権者側の組織として、今後も継続して普天間飛行場跡地利用計画に対して、会としての考えをまとめ、普天間飛行場跡地利用計画に対する提案を行っていきます。また、地権者の皆様から自由に意見交換できる機会を創り出していただけるような取組みを進めて参ります。そのためにも、地権者皆様の声をより多く集めていければと考えています。

今後引き続き、会の活動に対するご理解ご協力の程、お願い致します。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.47(中面)

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●現時点における合意形成活動の取組み情報を発信できた。

- ・地主会未加入者に対しても「ふるさと」を発行し、より多くの地権者に対して情報を発信できた。

【今後の課題】

- ・今後の計画づくりの進捗等も考慮しながら、時期を捉えた的確な情報発信を継続して行っていく必要がある。
- ・高齢の地権者も含めて、地権者全体に幅広く興味・関心を持ってもらえる情報発信媒体として、見易さ及び分かりやすさの工夫等、継続して検討していく必要がある。

2-2. 「NB ミーティング、市民などへ向けた情報発信の取組み」の成果と課題

取組み方針①：効率的に意見集約が出来るよう、対外的な活動の場を広げる。

取組み方針②：組織の基礎固めと活動の方向性の共有化を図る。

取組み方針③：市民の関心事を把握し、取組みや検討等によって学んだ事を市民へ情報発信する。

取組み方針④：市民の立場から知りたい事が何かを考え、探究し、理解した内容を市民に伝えていく。

取組み方針⑤：対外的な取組みにおける NB ミーティングの主体性の向上と市民への関心の啓発を図る。

(1) NB ミーティングの定例会活動支援

1) 取組みのポイント

NB ミーティングの定例会参加者数は年々減少傾向にあり、活発な議論や意見交換が難しい状況となっている。そこで、今年度は現状の定例会参加人数でも効果的な会議の進め方の工夫や、次年度以降の NB ミーティングとしての目標を見据えた取組み内容の検討や充実を図った。

2) 取組みスケジュール

No	開催日	主な活動内容
1	4月18日	・今年度の活動・検討テーマについて
2	5月16日	・今年度の活動・検討テーマについて (2回目)
3	6月20日	・活動内容や活動方針の具体化について ・会員の種別について
4	7月18日	・市民と基地返還後のまちづくりについて
5	8月15日	・プロモーションビデオ視聴会に向けた意見聴取方法について

6	9月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察の事前学習 ・那覇新都心地区周辺住民との意見交換会について ・若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催検討
7	10月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇新都心地区周辺住民との意見交換に向けて ・NBM まちづくり案の提言・発信方法について ・若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催検討
8	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と基地返還後の「まちづくり」検討テーマについて ・NBM まちづくり案の提言・発信方法について ・若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催検討
9	12月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇新都心地区周辺住民との意見交換会の開催
10	1月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と基地返還後の「まちづくり」検討テーマについて ・若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催検討 ・NBM まちづくり案の提言・発信方法について
11	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりゆんたくセッション」の開催に向けて
12	3月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり（案）策定に向けたテーマの選定 ・次年度の取組みについて



写真：定例会のようす①



写真：定例会のようす②

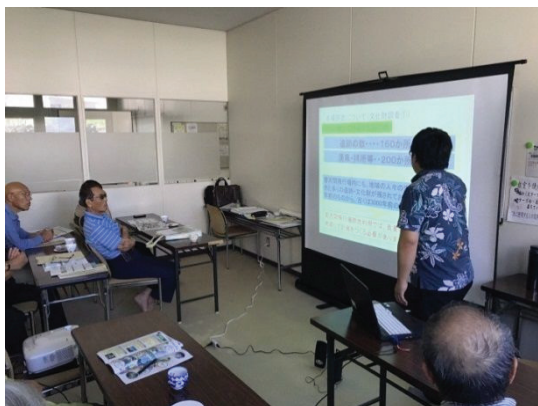
3) 対外的な取組み

3) -1 市民の関心事について

今年度の対外的な取組みを通して得られた意見から、市民の関心事を把握し、NB ミーティングとして「何の」まちづくりについて次年度検討していくべきか考えた。

①くがに会への跡地利用プロモーションビデオ (PV) 視聴会

- 開催日時：平成 29 年 5 月 23 日 (火) 15:00~16:00
- 開催場所：赤道老人福祉センター
- 内 容：跡地利用計画策定に向けた取組みの概要説明
跡地利用プロモーションビデオ (北側、南側) の視聴
意見交換
NB ミーティングの取組みと参加呼びかけ
- 参加者：17 名 (くがに会、NB ミーティング 等)



写真：概要説明のようす



写真：意見交換のようす

②大学生への跡地利用プロモーションビデオ（PV）視聴会

- 開催日時：平成 29 年 7 月 25 日（火） 13：00～15：30
- 開催場所：沖縄国際大学 3号館 101号室
- 内 容：跡地利用プロモーションビデオ（北側、中央、南側）の概要説明と視聴
意見交換（ワークショップ形式）
テーマ：①PVの疑問点について
②PVで表現されていた考え方の中で、他により良いアイデアなど
NBミーティングの取組みと参加呼びかけ
- 参加者：18名（学生、NBミーティング 等）



写真：PV 概要説明のようす



写真：視聴のようす

③我如古区地域支え合い活動委員会への跡地利用プロモーションビデオ（PV）視聴会

- 開催日時：平成 29 年 8 月 15 日（火） 14：00～15：00
- 開催場所：我如古区公民館
- 内 容：跡地利用計画策定に向けた取組みの概要説明
跡地利用プロモーションビデオ（北側、南側）の視聴
意見交換
NBミーティングの取組みと参加呼びかけ
- 参加者：18名（我如古区地域支え合い活動委員、NBミーティング 等）



写真：NBミーティング紹介のようす



写真：意見交換のようす

④市民の関心事のまとめ

対外的な取組みを通して得られた市民の関心事を、まちづくりのテーマ項目毎に整理した。

○緑・公園

- ・跡地に大きな公園をつくっても収入にならず、地権者は建物を建てた方が良く考えるのではないか。(くがに会)

○住宅地

- ・道路は中部縦断道路、宜野湾横断道路が示されていたが、他に数本通した方が良い。(くがに会)
- ・飛行場跡地が整備されたら既存集落に高齢者しか残らない可能性が考えられるので、そうならないよう十分に検討頂きたい。(我如古区地域支え合い活動委員会)
- ・跡地と周辺市街地を同時に開発して頂きたい。(我如古区地域支え合い委員会)
- ・PVで起伏の激しい土地を利用して風通しのよい街づくりを作ると言っていたが、道路をどうつくるのか分からない。(琉大)

○振興拠点

- ・PVの中に国際都市というキーワードがあったが、国営公園等を整備する事と、国連など国際的な機関の本部を誘致する事で、世界中から人々が集まり、国際的な施設があることで他国から攻撃されないなど安全となる。そういった機関の誘致を検討してもらいたい。(我如古区地域支え合い委員会)
- ・まちの価値が上がると、交流も増える、そして会社が立ち上がる。会社の目的は生活を豊かにするなどが多く感じられるため平和につながっていくのではないかと。(琉大)

3) -2 跡地利用と周辺市街地への影響

新都心地域周辺住民との意見交換を通して、周辺住民はどのような経緯で跡地利用のまちづくりについて関わっていくことになり、まちびらき前後でどのような問題、課題が生じ、また解決に導いたのかなどを聞き、NBミーティングの今後の取組みの参考とした。

那覇新都心地区周辺住民との意見交換会

- 開催日時：平成 29 年 12 月 19 日（火） 19：00～20：30
- 開催場所：那覇市上下水道局庁舎 B 棟 3 階「厚生会館」
- 内 容：基地周辺住民と跡地のまちづくりとの関わりについての質疑応答・意見交換
- 参加者：13 名
（安里 1 区自治会、安里 2 区自治会、安謝自治会、NB ミーティング、若手の会 等）



写真：意見交換のようす①



写真：意見交換のようす②

【質疑応答・意見交換の概要】

		NB ミーティングから各自治会へ事前配布した質問書に沿って回答を頂いた。
質 問	①	牧港住宅地区返還前に、跡地利用を考える機会があったのか。また、どのような経緯でまちづくりに関わっていったのか。
回 答	(安謝自治会)	地権者以外の周辺住民については意識が薄かった。新都心の開発により道路・商業施設が整備され利便性が向上した。
質 問	①	その機会はどのような方々が、どのように周辺住民全体の機運を高め、どのように意向の集約が進められていったか。市民目線でまちづくりを考える際のポイントと、考えたまちづくり案をどのように発信していったのか。
回 答	(安謝自治会)	安謝自治会は両方土地を持っているから関わってきたが、最初は興味がなかった。
質 問	②	隣接するまちが整備されたメリット、デメリットを伺いたい。
回 答	(安謝自治会)	メリットとしては、整備前は床上浸水が多く腰の上まで浸水していたが、新都心が整備され、水の流れが少なくなった事がある。また、開発前は直接安里に行けず、迂回しないといけなかった。それが解消された事、土地の価格が上昇した事がメリ

- ットである。
- デメリットは、交通量が非常に増え、危険性が増加した事と騒音の問題がある。地価が上昇した事は良いが、企業者でない人は税金（固定資産税）が上がって大変である。
- 回 答
(安里一区)
- 新都心地区と隣接しているが、地区内へ直接接続する道路がなく分断されているため、開発の影響がほとんどない。公園ができた事がメリットである。地域外に新しい道ができ交通の便が良くなり、地域内へ侵入する車が減った。これまでは抜け道利用としての通過交通が多く、保育園の園児が危なかった。泊小学校から真嘉比小学校などへの編入など学区が再編され、子供会もなくなった。
- 質 問 ③
- 地権者との連携についてどのような取り方をとられていたのか伺いたい。那覇新都心街づくり推進協議会との関わり方について伺いたい。
- 回 答
(安謝自治会)
- 最初は、新都心街づくり推進協議会には興味が無く、少しは土地の収入（軍用地料）もあるから今のままで良いと思っていた。ある程度、開発の計画が進まないと自分のやりたい事が見つけられないと思っていた。新都心街づくり推進協議会については、各字から選出された評議員が協議会で議論し、各字へ持ちかえり報告し、意見を集め、協議会の場へフィードバックしながら議論を行っていた。
- 質 問 ④
- 土地区画整理事業により、地域の分断や、伝統芸能（綱引き、エイサー等）が行われなくなったりしたのかどうか、コミュニティの喪失があったのか、あるいは新しいコミュニティが形成されたのか伺いたい。
- 回 答
(安謝自治会)
- 地域の分断や新しい自治会の誕生はあった。しかし、開発により伝統芸能が妨げられた事はない。
- 回 答
(安里二区)
- 都市計画道路ができた事で、安里が分断された。平面交差ではなく、立橋があるため年配の人や妊婦など行き来するのも大変であり、開発前までは催事に来ていた人が来なくなった。便利になったが、我々としてはコミュニティが分断され、平面交差にしてほしかった。説明資料から計画が立体交差になっているということが読み取れなかった。設計図が読める人がいて要望できていたらよかった。しかし、我々以外にとっては非常に便利になっていると思う。
- 質 問 ⑤
- 当時のまちづくりを振り返り、「あの時これを聞いておけば良かった」「関わっておけば良かった」ことを伺いたい。
- 回 答
(安謝自治会)
- 減歩率がどれくらいかと質問したとき答えてくれなかった。更地を開発するのではなく、特殊事情により土地が使用できなくなったエリアの開発のため地権者の話をできるだけ優遇して進めてほしかった。
- 質 問 ⑥
- 牧港住宅地区内に存在していた墳墓をどうしたか、まちづくりの計画段階において霊園の話があったのか伺いたい。
- 回 答
(安謝自治会)
- あまり墓に対する意見はなかった記憶がある。立ち入りできないため、特別な墓以外は全て取り壊して遺骨だけ移して空の状態ではなかったかと考えられる。開発前

は墓が多く残っていた場所があり、米軍もそこは触らなかった。開発の時に壊したと思う。

回 答
(安里二区) 墓について、那覇市旧銘苅庁舎の部分に昔の墳墓が残っている。フィンチャー墓(掘込墓)があると地価が下落するという事で壊すよう周辺住民からの要望があった。歴史的価値を重んじている人達が墓は残すべきという話があり、那覇市は残した。どちらがよかったのか分からないが、今となっては間違いだと思う。

質 問 ⑧ 新都心公園がある事について、周辺住民にとって良かったか良くなかったかを伺いたい。

回 答
(安謝自治会) 新都心公園ができた事は非常に良く、子供たちや地域住民のスポーツ施設、健康増進に繋がっている。

回 答
(安里二区) 公園は、環境・健康面で非常に役立っている。車が入れず子供の安全な遊び場となる。他にも公園はあるが、ちょっとした遊び場や防災の面にもなるため非常に役立つ。

質 問 ⑨ 安謝地区は、歩車分離が完全になされていないがどう感じているか伺いたい。

回 答
(安謝自治会) 開発に伴い交通量が増えたため歩車分離は絶対必要と考えている。

質 問 ⑩ 新都心公園から離れた地域、特に安謝では公園が整備されたことによるメリットがあるのか。公園に付加価値が付いているとすれば、公園周辺と安謝では土地の価格に差がでていられるかと考えられるが、それを実際に住民が感じているのかどうか伺いたい。

回 答
(安謝自治会) メリットはある。健康増進に活用している。土地の価値の上昇については皆感じているが、土地の価格に差が出ている事について不満はない。公園ができた事が一因となり周辺に商業施設が整備され、その事により地価が上昇したと思っている。

質 問 ⑪ 新都心地区には地区公園が点在しているが、メインとなる新都心公園と比べて、地区公園に満足されているか伺いたい。

回 答
(安謝自治会) 近くの公園は結構使う。皆が満足しているかどうか分からないが私は有益であると考えている。

回 答
(安里二区) 欲を言えばもっと広い公園が必要であるが、減歩が大きくなる。法的に必要な公園緑地面積プラスで公園緑地面積が確保できればいいと思う。

各自治会から回答を頂いた後、続けて自由な意見交換が進められた。

質 問 米軍接收前は、何自治会が置かれていたのか。

回 答 銘苅と安里、天久、泊、安謝、上之屋自治会などが置かれていた。

質 問 どういう経緯で移ったのか。

回 答 当時は、農村地域であり、住宅や畑などがあったが、全部米軍により接収され追い出される格好であった。

質 問 地権者も基地の周辺に住んでいたという事なのか。

回 答 その通りである。周辺で地代をもらって生活しており、普天間と同じ状況である。

質 問 土地が返還される際に、土地に思い入れがある方は元の場所に住み着きたいと考え、自治会の区域が増えるなど、地主や周辺地域の方は、そういう気持ちが強くなかったのか。

回 答 思い出のある時期というのは随分前であり、返還後の現状回復もある事から更地となり思い入れはない。米軍基地によって跡形なく既に思い入れのものは無くなった場所である。思い入れのあるものが残っていれば、土地を残してもいいと思う。

質 問 新しく住まわれた方がコミュニティを立ち上げているのか。

回 答 昔から住んでいた人が戻って家を建てている場合もあるし、地区外から来た人が家を建てている場合もある。両方でコミュニティを作っている。また、安里2区は自治会加入率が低くなっており、昔からいる人が中心となっており自治会は非常に厳しい状況である。新都心地区は高齢化率が低いと考えられる。

質 問 公園の減歩の話について、どちらかという減歩には影響がなく、買収が目標面積に達しなかったから一律何%という形で減歩としたという話があったと思うが、反発などはどうだったのか。

回 答 一律で買収しようとしたが、それでも売らなかった人もいる。減歩は街づくりに必要であるがここが最もネックであり時間がかかった。

質 問 返還から開発スタートまで20年かかったと聞いている。いざ返還となったとき、60歳で返還されたとしたら開発スタート時は80歳であり考え方の変化や世代交代があったと思うが、その辺りはどうか。

回 答 高齢者は安定を望む。返還により地代がなくなる事が高齢者にとっては嫌であったと思う。更にその先が見えないため余計に不安であったと思う。それを合意形成図るのが地主会の役目である。新都心開発する時ハンビーの話をよく成功事例として出した記憶がある。

質 問 開発前後で極端にまちの様子が変わったのか。安謝でも直接の影響はなかったが大きく変わった（付加価値がついた）という事であるが、自治会の様子も変わってきたのか。

回 答 人が増えてきたためアパートが増えた。もともとあった中古アパートは空きが目立つが、新しいアパートができればそこに移るため仕方ないと思う。

質 問 地域整備公団が開発を進めたとお聞きしたが、突然、県外式で開発などなされたと思うが、どんな思いであったか。

回 答 当時は、沖縄県内でこれほど大規模な整備を行うノウハウが無く、実績のある地域整備公団を活用しようとなり、任せた。公団が入った事によりまとまったと思っている。

質 問 周辺住民の関心の度合いはどうであったか。

回 答 「新都心」というネーミングに皆心惹かれ協力したと思う。もし、「新都心」じゃなかったら周辺地域はあまり協力しなかったと思う。

質 問 新都心ができ交通量が増え、その影響で周辺も渋滞していると思うが、その時具体的に歩車分離など自治会として、どうすればよかったと思うか。

回 答 新都心のまちづくりは地権者以外、あまり興味がなかったと思う。今は、もっと道路が広げればと思う。地域内の生活道路が倍に増え、登下校に非常に影響がある。自治会が登下校時には立って交通安全を行っている。安謝は歩道が無く余計に危険であり、歩道の早急な整備が必要になる。

質 問 一番危険なのは交通量という事なのか。

回 答 都市計画道路だけでなく生活道路もすごい交通量である。歩道が出来ていないから支障が出ている。スクールゾーンもあるが関係なく車が走っている。

質 問 周辺に追いやられ少ない土地で不便を負ってきた、安里一区の自治会はどういう意見を出したのか。

回 答 計画区域外だから意見を言えなかった。戦前の安里一区は、あまり人口が多くない地域であり、畑や墓が多かった。そのため影響あった人は少なかったと考えられる。接收後の墓は大道に移転させたが後に真嘉比、古島にさらに移転した。戦後、しばらくの間は元の場所に住んでいたが、その後フェンスが立ち接收された。

質 問 うがんじゅ（御嶽）は残っているのか。

回 答 シングルクガー（拝所）が残っている。

質 問 市文化財なのか。

回 答 文化財ではない。銘苅自治会が管理している。

質 問 周辺地域として文化財の価値があるとは感じなかったのか。

回 答 考え方の違いで、地主は地価の上昇をすることを考えていた。地域の人は拝所があったら壊さないでほしいと思う。

質 問 周辺地域も新都心の開発を契機に何かしようという動きはなかったか。

回 答 何でも変えればよいというものではなく、昔からの風景を大事にしようという考えの人が安里には結構いたため、新都心と連携して整備をするという考えはなかったと思う。首里の石畳などのような感じを目指していた。分断されて迂回したとして

		もやはり居心地がよい。
質	問	自治会としては昔ながらの風景がなくなるのは望ましくないという事か。
回	答	風景だけではなく人との繋がりなどなくなるのは望ましくない。
質	問	周辺住民として、普天間飛行場の跡地を考える周辺住民に対して何を考えればよいかなどアドバイスあれば頂けないか。
回	答	モノレールができた事も大きかったため、交通手段を車かそれ以外か、考えた方がよい。また、交通量も考えた方がよい。
回	答	道路幅員について50年、100年先の事を考えもう少し広い道路を考えた方がよい。また、固定資産税が相当上がった事が問題である。
質	問	こんな公益施設あったらよかったと思う事はあるか。
回	答	那覇庁舎が来なかったのが残念である。大きな話で言えば、モノレールを環状線にしてほしい。国際通りと新都心を直接結ぶものが欲しかった。宜野湾に市道11号線ができると思うが、そういう広い道路を整備した方がよいと思う。
質	問	電柱埋設の話はなかったか。
回	答	14、5年前に話があがり、商業地域だけはやっている。最初からやっておけばよかったかもしれない。
質	問	自治会は年配の人が中心となって活動すると思うが、歩いて商業施設まで行くのか。
回	答	コミュニティバスの利用や子供がいれば乗せてもらうが、そうでなければ歩く。
質	問	学校と自治会の関係は如何か。
回	答	安里は旗頭を持っていたが、鉦鼓隊を壺屋小学校だけがやっていて、泊小学校も行うが新しく壺屋小学校との関係も作らないといけない。子供会がなくなったのが非常に強い。新都心ができる事で学区が変わり、地域に住んでる子どもたちの関係も変わった事が残念である。
		以上

4) 今年度のまとめと次年度の方向性

今年度は、まちづくり案のテーマ選定に向けて対外的な取り組みや、継続的に行っている若い世代間との意見交換を通して、頂いた意見を参考に NB ミーティングとして何を重要に考えるかといった視点で絞ってテーマの選定を行った。また、次年度以降のまちづくり策定における方向性についても NB ミーティングの中で共有化が図られた。

①テーマ選定の視点

重要に考える視点としては以下の3点に絞った。

- ・市民にとって分かり易いテーマとなっているか
- ・市民として、跡地利用の関心が湧くテーマとなっているか
- ・跡地の内外共通で考えるテーマとなっているか

②テーマの決定

NB ミーティングとして、まちづくり案を策定する上で、多くの市民に跡地利用の関心を持って頂くことを優先させ楽しみながら検討できることが重要と考え、以下のテーマに決定した。

まちづくり案策定のテーマ「住環境」

③次年度の方向性

NB ミーティングが考える住環境についてのまちづくり案策定に向けて、NB ミーティングの活動のひとつであるフィールドワークを通して市民から意見を集める。参加者については、親子を対象とした企画を実施し、多くの参加者からの意見を NB ミーティングで集約し、まちづくり案策定に活かしていく。

5) 取り組み成果と今後の課題

【取り組み成果】

●効率的な意見集約ができた。

- ・現状の定例会参加者数では活発な議論や意見交換が難しいため、会員の地縁を活かして、「くがに会」と「我如古区地域支え合い委員会」の2団体を訪問し、「普天間飛行場跡地利用計画に係る取り組み状況の説明」と「普天間飛行場跡地利用に関するプロモーションビデオ(PV)視聴会」を行い、跡地利用に関する質問や提案に関する意見を集めた。そこで集めた多くの意見を整理し、定例会参加者以外の市民の意見も取りまとめる事ができた。

●組織の基礎固めと活動の方向性の共有化を図る事ができた。

- ・次年度まちづくり案を策定する事が NB ミーティングで決定した際、提案・提言のとりまとめ方や情報発信の検討を行い共有化を図る事ができた。合わせて定例会参加者からそれぞれの興味の視点から具体的な取り組み提案もなされ、次年度当初のスムーズな活動のスタートが可能となった。
- ・定例会で会員種別の追加の承認を受け、各会員へ個別に会員種別の意向確認を行い、実態整理ができた。

●市民の関心事を把握し、取組みや検討等によって学んだ事を市民へ情報発信することができた。

- ・軍用地跡地利用の先進事例として那覇新都心地域の周辺住民との意見交換を通して、跡地開発による周辺住民への影響を学習した。その結果を NB ミーティング自ら「まちづくりゆんたくセッション」及び「まち未来だより」を通して情報発信する事ができた。

【今後の課題】

●多くの他団体との連携を深め、意見収集を行うルーティン化を図るしくみづくりと、定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である。

- ・意見を集めた 2 団体へは、その意見がどのように NB ミーティングの活動に活かされたのか、報告を行い、次年度の取組みテーマについての意見も聞き取り連携を深め、活動のルーティン化を築く必要がある。
- ・本年度は 2 団体から意見を集めたが、今後も継続的に多くの団体と関わり意見を聴取する必要がある。
- ・定例会参加者を増やし、議論の活性化を図っていく取組みが必要である。

●継続して組織の基礎固めを進めていく必要がある。

- ・今年度は議論の共有化が図られ分野ごとに分かれて議論する必要は無かったが、参加者によっては興味の思い入れが強く合意が難しい事もあるため、会議の進め方やイベントの実施体制など今後も継続して組織の基礎固めについて議論を行い、十分に機能できるようにしていく必要がある。また、会員種別の追加について、定例会で承認は受けたが、会則の変更が保留となっているため、役員の任期の見直しや事務局の所管課名称変更についても議論が必要となる。
- ・「過去と未来の語り場」の継続の検討や「地域団体向け出前 PR」実施について保留となっているため、年間の活動テーマに沿った活動なのか精査し今後の実施を検討していく必要がある。

(2) 若い世代間での意見交換会や討論会等のイベントの開催

1) 取組みのポイント

跡地利用に対する市民の関心向上を図るきっかけづくりとして、「将来望まれるまちづくり像」をテーマとした「まちづくりゆんたくセッション」を開催し、市民の跡地利用に対する関心の向上の事と併せ、NB ミーティングの活動周知が図られた。

2) 開催概要

- 開催日時：平成 30 年 3 月 4 日（土） 13：00～17：00
- 開催場所：宜野湾市社会福祉センター
- 内 容：
 - ・ 普天間飛行場跡地利用計画に係る取組み状況の説明
 - ・ Google Map を用いたフィールドワーク①
 - ・ 今年度のNB Mの取組み報告
 - ・ Google Map を用いたフィールドワーク②
 - ・ レゴブロックを使用したまちづくりのシミュレーション
 - ・ まちづくり意見交換会
 - ・ まとめ
- 参加者：22名（NB ミーティング、学生、一般参加者 など）

3) 作業の流れ

2グループに分かれて、作業を行った。

①Google Map を用いたフィールドワーク①

過去の宜野湾市の地図や現在の航空写真から道路や集落の変遷を確認し、宜野湾市の現状を地図に落とし込む作業を行った。

（市内にある学校の配置、公園の数や位置、まちなみ（区画整理の有無、道路配置）、建物の老朽化など）



【基地周辺状況について話し合うようす①】



【基地周辺状況について話し合うようす②】

②NBM活動紹介

今年度のNBMの活動紹介を通して、跡地利用に関する市民の関心事や周辺市街地に与える影響などを紹介した。



【活動紹介の様子①】



【活動紹介の様子②】

③Google Map を用いたフィールドワーク②

NBM活動紹介を踏まえて、宜野湾市の現在の地図と配置方針図を重ね、跡地開発の影響を図面に落とし込む作業を行った。

(開発道路が通る事による影響や、跡地内に出来る公園・緑地により子供の達の遊び場や憩いの場の創出による影響、大山地域は斜面緑地で跡地と分断される影響など)



【周辺地域へ与える影響を話し合いのようす①】



【周辺地域へ与える影響を話し合いのようす②】

④レゴブロックを使った市街地への影響に関するシミュレーション

③作業で、様々な影響を記載した配置方針図にレゴブロックで開発のシミュレーションを行った。周辺市街地の住宅地や商業地を配置し、中部縦貫道路を通して建物を動かし、道路沿線に商業施設の配置の可能性などを検討した。また、レゴブロックで跡地内に区画整然とした住宅地を作る事で、先に配置した周辺市街地の住宅地と比較して、周辺市街地の住民から見てどのように感じるかなどを問いかけた。

レゴブロックで大山地域の斜面緑地の部分に立体道路を配置し、住宅地に与える影響を検討した。レゴブロックで喜友名地域に隣接した跡地内に公園や緑地を配置し、喜友名地域の住民はどう感じるかなどを問いかけた。



【周辺市街地のモデルの作成のようす①】



【周辺市街地のモデルの作成のようす②】



【周辺市街地のモデルの作成のようす③】



【周辺市街地のモデルの作成のようす③】



【周辺市街地のモデル作成結果①】



【周辺市街地のモデル作成結果②】

⑤まちづくり意見交換会

これまでの作業を通して、周辺市街地への影響や思いなどを抽出したが、今後のまちづくりに「良い点」「改善点」「連携が必要な点」などの分類を行い、将来望むべき姿について意見交換を行い、望まれるまちづくり像をまとめた。



【意見交換のようす①】



【意見交換のようす②】

4) 結果

作業を通して2グループから得られた意見を以下の表にまとめた。

①1グループ

枠組み	現状	跡地開発の影響	まちづくり	将来像
緑・公園	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい公園が多い。 ・大謝名地域は緑が少ない。 ・公園の駐車場が無いまたは小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園が広がる。 ・子供達の安心安全の場が出来る。 ・災害時などの対応ができる。 ・大人も楽しめる公園が出来る。 ・様々な人が訪れる。 ・明るい公園が出来る。 ・緑は減るのではなく残るか増える。 ・地下水の問題。 	<p>(1)良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憩い、安らぎ、遊ぶ、くつろぐ場になる。 <p>(2)改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方が訪れることを想定し、公園に駐車場を設ける。 ・湧水利用の公園を建てる。 <p>(3)連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災時の避難場所を取ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設等をおいて大会が出来るような場にして活性化に繋げてほしい。 ・子供や大人が楽しめる安心安全な場となってほしい。
住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞が多い。 ・抜け道渋滞が多い。 ・道が狭い。 ・スクールゾーンにガードレールが少ない。 ・空き地が多くなっている。 ・アパートが多くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水の減少が影響するのではないか。 ・立退きの可能性がある。 ・交通の利便性が良くなる。 ・周辺市街地の過疎化の可能性。 ・生活道路が増える。 ・開発の影響を受けない地域が出てくる。(開発に取り残される地域が出てくる。) 	<p>(1)良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいところにすみたくなる。 ・安心な道になる。 <p>(2)改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観条例を作ること。 <p>(3)連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人が来て、都市が機能しなかった時の市との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立退きの人も団地立て直しの際にそこに行けるとなると理想的。
振興拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街が多いところもある。 ・大謝名地域は金融機関、公共機関少ない。 ・活発な商店は少ない。 ・開発は少ない。 ・下水処理匂いすごい。 ・普天間はファミリーマートがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致が進み賑やかになる。 ・交通網が良くなる。 ・店同士の競争が激しくなる。 ・バスが増えると良くなる。 	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・中心に商業圏をおいてみんなで盛り上げられるようになってほしい。

②2 グループ

枠組み	現状	跡地開発の影響	まちづくり	将来像
緑・公園	<p>(1)基地の東側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑少ない。 ・緑・公園の偏りがある。 ・見ようと思う緑ではない。 ・利用しづらい。 ・お墓と緑がたくさんある。 <p>(2)基地の西側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海浜公園などがあるためウォーキングしやすい。 ・湧水良い。 <p>(3)基地内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原生林や文化財が残っており守る緑がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基地があったという事実を残して考える場となる。 ・基地なくなることは良い影響。 	<p>(1)良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てする人が増える。 ・公園ができることはうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木陰のあるイベントが出来る公園。 ・若者が生き生き出来る場となってほしい。 ・小さい公園を多く。 ・防災拠点になる。 ・あえて手を加えない。
住宅地	<p>(1)道路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞が多い。 ・普天間飛行場の迂回が必要。 ・路上駐車や右折車により国道 330 号運転しづらい。 ・複雑な狭小道路網がある。 <p>(2)住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の老朽化が見られる。 	<p>○心境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跡地内は整備され街並みが整っていて良い。 ・跡地内と周辺は対立する。 ・跡地内に引っ越そうかな。 	<p>(1)良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迂回不要。 ・収入の向上。 ・渋滞緩和。 ・防災能力向上。 ・新しいコミュニティが出来る。 <p>(2)改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸橋などの影響による日照。 ・立退き。 ・地価が上がる。 ・賃貸物件の空室が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“跡地”だけじゃなく、“宜野湾”開発を目指していく。 ・住民全体一丸となれるような雰囲気のあるコミュニティ形成がなされた住宅地。 ・新興住宅のルール等を設定し隣同士快適に過ごせる住宅地。 ・小さい自治会や既存自治会へのサポートがある住宅地。 ・那覇市新都心地区の水の道公園で夜風に吹かれながら、持ち寄った料理を味わい、集まった人と交流するナイトピクニックが出来るようなコミュニティ形成がなされた住宅地。
振興拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間地域の商店街はさびれない。 ・コンベンション周辺は栄えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型店や幹線道路等も整備され利便性の向上。 	<p>(1)良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業活性化に繋がる。 ・新しい店が増える。 ・公共施設が増える。 ・生産性向上に繋がる。 <p>(2)改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺商店街がもっと錆びれる。 ・跡地内と周辺市街地の生活環境の利便性の格差が生まれる。 ・店同士の競争にならないような工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾らしさを大切に振興拠点の形成。 ・文化財・遺跡を大事に活かした振興拠点の形成。

5) 周辺市街地の住民による跡地のまちづくりへの関わり方(グループ代表者からの発表)

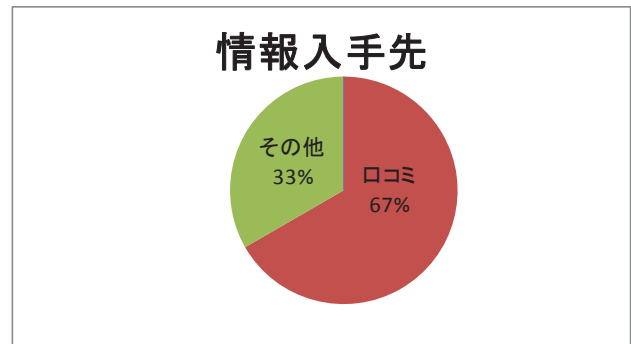
- ・「跡地開発」を「宜野湾市を開発していく」と言葉を置き換えると、跡地側だけでなく周辺市街地と一緒に開発していくという意識を持つことができる。それにより市民が自ら関わる事ができ、他人事ではなく宜野湾市民として開発に関われるのではないかと考える。しかし、どのように関心を持って頂くかということ^{を返還までに考えていかなければなら}ない。
- ・要望を伝えることが必要である。その前に、若者や高齢者など関係なく、宜野湾を知ってもらう必要がある。

6) 参加者アンケートの結果

参加者へアンケートを実施した結果は以下の通りである。

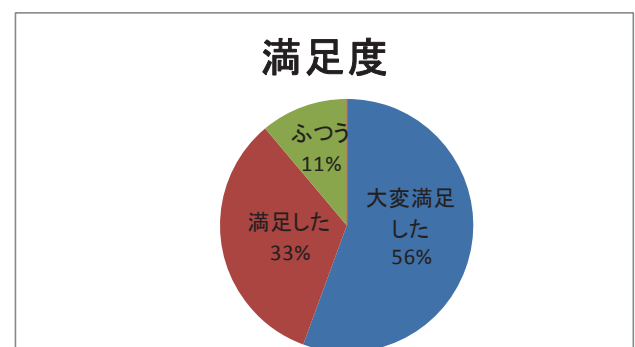
1 本日のまちづくりゆんたくセッションについてどのように知りましたか。

項目	件数
市報	0
口コミ	6
その他	3
無回答	0



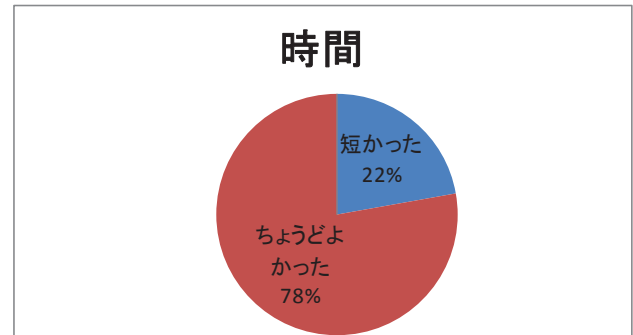
2 本日のまちづくりゆんたくセッションの満足度について教えてください。

項目	件数
大変満足した	5
満足した	3
ふつう	1
やや不満	0
不満	0
無回答	0



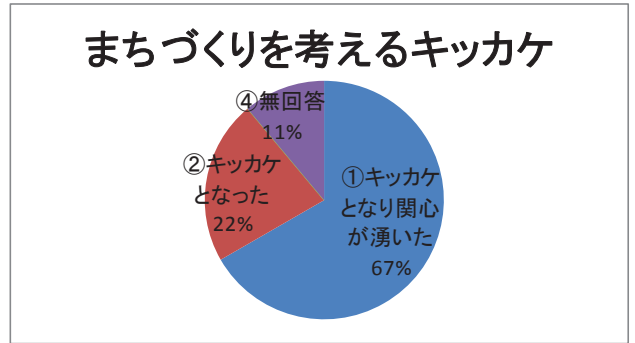
3 本日のまちづくりゆんたくセッションの時間についてどのように感じましたか。

項目	件数
短かった	2
ちょうどよかった	7
長かった	0
無回答	0



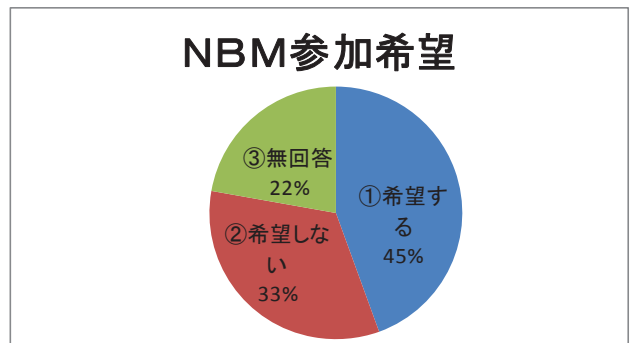
4 普天間飛行場返還後のまちづくりを考えるキッカケとなりましたか。

項目	件数
①キッカケとなり関心が湧いた	6
②キッカケとなった	2
③分からない	0
④無回答	1



5 「ねたてのまちベースミーティング」の会議に参加（見学）を希望しますか。

項目	件数
①希望する	4
②希望しない	3
③無回答	2



6 意見・感想をご自由にお書きください。

- ・ 約4時間の会でしたが、あっという間でした。自分たちの住んでいる宜野湾市について深く知り、知ろうと思いました。もっとたくさんの方に、この機会を知って参加してほしいですね。もったいない。
- ・ 学生や主婦の思い、考えの話が沢山出て、1人の男性として「なるほど」という気付きがありました。レゴブロックで形を具体化する事で、開発計画の内容が分かり易かった。フェンス傍に墓があり、周辺市街地がどう変わってゆくのか、これから関わっていきたい。
- ・ 跡地利用だけでなく、宜野湾市の課題を考える事が出来ました。
- ・ ワークショップ形式で「気付き」が出来たのは良かったです。今後の取組みに期待しています。
- ・ 今は普天間基地が邪魔していて交通が不便なので、それを解決してほしいのと、普天間基地がなくなるとどうなるのだろうとワクワクしました。

7) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

- 市民の跡地利用計画に対する啓発に繋がり、NB ミーティングの活動にも直結するまとめが得られた。
 - ・「まちづくりゆんたくセッション」を開催し、その中で本年度のNB ミーティング自らが活動報告を通して、市民へ跡地利用の関心を促した。
 - ・年度目標に合わせたイベント内容の設定が出来たため結果がNB ミーティングの成果にそのまま繋がられた。
- 参加者全員の意見を引き出す工夫がなされた。
 - ・今回のワークショップは複雑ではあるが、Google Map による説明やレゴブロック、

配置方針図シート（トレーシングペーパー）などを活用し、作業に参加しやすい雰囲気を作る事ができた。そのため、今回初めて跡地利用計画について知ったという参加者からも積極的な発言が見られた。

【今後の課題】

- 参加者のターゲットを絞った企画内容の検討と、効率的な実施体制の検討が必要である。
- ・会員の参加が少なかったため、次年度は早期に日程を固め会員のスケジュールを確保し、実施する際の役割分担を決める等、実施体制の構築を行う必要がある。
- ・一般参加者や学生についても年々減少傾向にあるため、参加者のターゲットを「親子」に絞り、大人も子供も楽しめる企画について検討を行う必要がある。
- ・NB ミーティングから跡地利用を考えるための説明を行った事で市民の共感も得られたため、今後更に市民の関心事を探し、伝えていく必要がある。

(3) まち未来だよりの作成・発行

1) 取組みのポイント

市民を対象とした情報誌「まち未来だより」による情報提供を行い、情報発信媒体としての確立を図る。また、跡地利用に向けた現在の進捗状況等に関する情報提供を行うとともに、NBミーティングの認知度向上に向けた活動の周知等を行った。

2) 情報発信の内容

回数	発送時期	主な掲載内容
第7号	平成30年3月	○報告・紹介事項 ・「児童・生徒絵画コンクール」 ・「NBミーティング」の活動紹介 ・先進地視察会

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

1.「普天間飛行場跡地 児童・生徒絵画コンクール」を開催しました

1-1. 目的
 普天間飛行場返還後のまちづくりに向けて、将来を担う市内小中学校の児童・生徒が夢のある宜野湾市の未来を考えるきっかけとなることを目的に「普天間飛行場跡地～ゆめのあるまのわんのみらい～絵画コンクール」を開催しました。

1-2. 募集作品テーマ
「こんなふうになったらいいな」わたしのえがかきぎのわんのみらい」
 普天間飛行場返還後のまちづくりについて、応募者が考えるまのわんのみらいのイメージを描いた作品を募集したところ、558作品の提出がありました。

1-3. 選考方法
 学校首長で選定された118作品の中から、審査委員会において絵画的技術のみならず、返還後の跡地利用におけるアイデア、作者の思いなどを総合的に評価し、42点の入賞作品が選定されました。



普天間小学校1年 山田 晴 「まいにちがハッピーなまち」
 宜野湾中学校3年 遠藤 彩人 「新しい宜野湾市へ笑顔いっぱい」
 奥志井中学校2年 奥野 英明 「電車と一緒に」
 ほととぎす小学校3年 宮良 侑子 「とってまハッピー宜野湾市」

3. 先進地視察で普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて知識を広げています

3-1. 先進地視察会
 今年度は、「活発なまちづくり活動団体」と「多様な拠点(テーマ)のある国営公園」の2つをテーマとして、愛知県と岐阜県、三重県、滋賀県を訪れました。

◆NPO法人なごや東山の森づくりの会
 概要…オリンピックスタジアムの建設候補地となることに反対を唱えた市民の自然調査活動をきっかけに発足した組織です。現在は、市民・行政・企業と協働で東山公園と平和公園の保全・管理活動を行っています。



学んだこと…子どもが楽しめる活動だと家族単位で参加するので参加者を集めやすい、参加者が増える運営側の負担も増えるので、組織の運営体制も考える必要があることを学びました。

◆NPO法人彦根景観フォーラム
 概要…都市開発や整備事業が進む中、美しい自然環境と歴史的遺産を持つ城下町彦根のまちなみを保全し、活用していくための取組みを行っている組織です。



学んだこと…街並み保全活動に関するアイデアの発掘や情報収集、発信、参加者を増やすための取組みとして、大学や商工会、商店街連盟など様々な団体と連携する必要があることを学びました。

◆国営木曾三川公園
 概要…愛知県、岐阜県、三重県にまたがる日本一大きな国営公園で、河川沿いの各13拠点に「河川の広大な空間と豊かな自然」「水上スポーツ」など、それぞれテーマが設定されています。季節ごとに様々なイベントが開催され、年間約1千万人の来客があります。



学んだこと…市民団体と協働で市民花壇の手入れやイベント運営などに取組むことにより、来園者数の増加が図られていること等を学びました。

3-2. 勉強会

【講師】国土交通省中部地方整備局建設部公園調整官 笠間 三生 氏
【テーマ】国営木曾三川公園事業について
 目的…国営木曾三川公園の視察の前に、公園事業に詳しい国土交通省職員を招き、勉強会を開催しました。



学んだこと…公園を住宅に例えると、海外や国内の観光客をもてなす「接客員としての公園」、地域住民や誰もが訪れて楽しめる「リビングとしての公園」に分かれ、公園をつくる時は、地域の現状や目的を考える必要があることを学びました。また公園づくりの計画段階から、公園の活用方法に関して市民も参画することが良いと学びました。

【「まち未来だより」発行元】
 宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課 普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページの情報提供窓口 901-2710 沖縄県宜野湾市野原一丁目1番1号 (宜野湾市基地政策部まち未来課) でも提供しております。情報収集やお問い合わせは、098-932-4481 (直通) FAX: 098-932-7022 利用に際しては、ご留意をお願いします。

図：「まち未来だより」vol.7 (表面)

2. わたてのまちベースミーティング (NBミーティング) の活動紹介

2-1. 活動目的
 本組織は平成18年度に発足し、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を市民目線で考えるため、月1回の定例会の中で検討を行い、また他団体との意見交換などの対外的な取組みを行っています。

2-2. 普天間飛行場の跡地利用とは
 沖縄県と宜野湾市は共同で普天間飛行場の跡地利用の検討を進めており、平成25年3月に普天間飛行場跡地利用計画の策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」を策定しました。 (配当方針別(右参照)) 普天間飛行場の跡地利用計画の最終状況は「イメージ」で発表するプロジェクトページ「伊り」は「伊り」から掲載されます。
<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-mira/>



2-3. 今年度の検討テーマ
 次年度の「NBM まちづくり策定」に向けたテーマの選定

2-4-1. 対外的な取組み①(各種団体との意見交換会)
 普天間飛行場の跡地利用について、市民はどのような関心事があるかを把握するために、市内団体を訪問し現在の跡地利用計画等(2-2. 普天間飛行場の跡地利用とは参照)の説明を行い、頂いた意見をまちづくりのテーマ毎に整理しました。



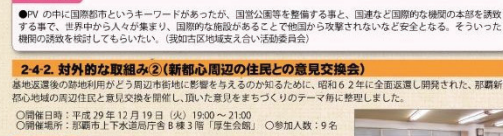
●跡地に大きな公園をつくっても収入にならず、地権者は建物を建てた方がよいと考える。(くがに会)

住宅地
 ●道路は中間道路、宜野湾橋通りが示されていたが、他に数本道の方が良い。(くがに会) ●飛行場跡地が整備されたら居住集積に高層ビルが建てる可能性があるから、そうならないよう充分に検討したい。(我知吉区地域交流員活動委員会) ●跡地と周辺市街地を同時に開発してほしい。(我知吉区地域交流員活動委員会)

集積拠点
 ●PVの中に国際都市というキーワードがあったが、国営公園等を整備する事と、国連など国際的な機関の本拠地を誘致する事で、世界中から人が集まり、国際的な施設があることで他国から攻撃されないなど安全となる。そういった種類の施設を検討してもらいたい。(我知吉区地域交流員活動委員会)

緑・公園

2-4-2. 対外的な取組み②(新都心周辺の住民との意見交換会)
 基地返還後の跡地利用がどう周辺市街地に影響を与えるのかわからない、昭和62年に全面返還し開発された、新都心地域の周辺住民と意見交換会を開催し、頂いた意見をまちづくりのテーマ毎に整理しました。



●開催日時：平成29年12月19日(火) 19:00～21:00
 ●開催場所：那覇市上水辺沿道B棟3階(厚学会館) ●参加人数：9名

緑・公園
 ●公園は、環境・健康面で非常に役立っている。車が入らず子供の安全な遊び場となる。他にも公園はあるが、ちょっとした遊び場や防災の面でも役立つ。(安里2区自治会) ●法的に必要な公園緑地面積プラスで大きな公園緑地面積が確保できれば良いと思う。(安里2区自治会)

住宅地
 ●「跡地」だけでなく、「宜野湾」開発を目指してほしい ●新興住宅地のルール等を設定し、隣同士快調に過ごせる住宅地になってほしい ●地域内の交流が促されるイベントなどが行えるコミュニティの形成がされてほしい。 ●立ち寄りの人も回遊して貰えるようにしてほしい ●小さい公園を多く作り、防災拠点に活用できるような公園になってほしい。

集積拠点
 ●中心に商業圏において宜野湾市全体で盛り上げられるようになってほしい。 ●宜野湾らしさを大切に活かした集積拠点の形成。 ●文化財、遺跡を大事に活かした集積拠点の形成。

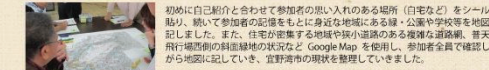
住宅地

●開発地域では整備前は床上浸水があったが、新設公団が整備され浸水被害が少なくなった。(安里自治会) ●交通量が非常に多く、危険性が加わった事と騒音の問題がある。(安里自治会) ●植込が上野した事は良いが、経費がかかるとは税金(固定資産税)が上がって大変である。(安里自治会) ●地域内に道路が新設され交通の便が良くなり、抜け道としての地域内道路が交通が滞った。(安里1区自治会) ●安里2区は地区中央に都市計画道路が整備された事で、地域が分断された。(安里2区自治会) ●都心でできた事で学区が再編され、子供もなくなり、地域に生きている子どもたちの関係も変わった。(安里1区自治会)

2-4-3. 対外的な取組み③(まちづくりゆめなくセッション)

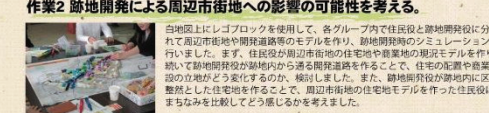
普天間飛行場返還後のまちづくりが周辺市街地にどのような影響を与え、地域がどう変化するかを考えるため、「まちづくりゆめなくセッション」(本セッション)を開催しました。セッションでは、参加者が2グループに分かれて、これまでの対外的な取組み(1)(2)で得られたまちづくりのテーマ毎に将来のまちづくり像について考えました。
 ●開催日時：平成30年3月4日(日)13:00～17:00 ●開催場所：宜野湾市社会福祉センター ●参加人数：22名

作業1 宜野湾市の現状を整理する。



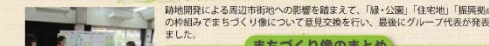
初期に自己紹介と合わせて参加者の思い入れのある場所(自宅など)をシールで貼り、続いて参加者の記憶をもとに身近な地域にある緑・公園や学校等を地図に記しました。また、住宅が密集する地域や狭小道路のある複雑な道路網、普天間飛行場跡地の緑地帯の状況など Google Map を使用し、参加者全員で確認しながら地図に記していきます。宜野湾市の現状を整理していきます。

作業2 跡地開発による周辺市街地への影響の可能性を考える。



自治体以上にシミュレーションを使用し、各グループ内で住民役と跡地開発役に分かれて周辺市街地や開発跡地のモデルを作り、跡地開発時のシミュレーションを行いました。まず、住民役が周辺市街地の住宅地や商業地の現状モデルを作り、続いて跡地開発が跡地内から通る開発道路を作ることで、住宅の配置や商業施設の立地がどう変化するか、検討しました。また、跡地開発が跡地内に交通を整えた住宅地を作ることで、周辺市街地の住宅地モデルを作った住民役は、まちなみを比較してどう感じるかを考えました。

作業3 今後どのようなまちを作りたいか話し合う。



跡地開発による周辺市街地への影響を踏まえて、「緑・公園」「住宅地」「集積拠点」の枠組みでまちづくり像について意見交換を行い、最後にグループ代表が発表しました。

まちづくり像のまとめ

緑・公園
 ●スポーツ施設等を配置し、大きな大会が出来るような場を創出して宜野湾市の活性化に繋げてほしい ●子供や大人が楽しめる安心・安全な場となしてほしい ●緑が生き生き出来る場となしてほしい ●小さい公園を多く作り、防災拠点に活用できるような公園になってほしい。

住宅地
 ●「跡地」だけでなく、「宜野湾」開発を目指してほしい ●新興住宅地のルール等を設定し、隣同士快調に過ごせる住宅地になってほしい ●地域内の交流が促されるイベントなどが行えるコミュニティの形成がされてほしい。 ●立ち寄りの人も回遊して貰えるようにしてほしい ●小さい公園を多く作り、防災拠点に活用できるような公園になってほしい。

集積拠点
 ●中心に商業圏において宜野湾市全体で盛り上げられるようになってほしい。 ●宜野湾らしさを大切に活かした集積拠点の形成。 ●文化財、遺跡を大事に活かした集積拠点の形成。

図：「まち未来だより」vol.7 (中面)

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

● 跡地利用に向けた取組みに関する情報提供ができた。

- ・ 全体計画の中間とりまとめや、市民のまちづくり機運醸成を目的に実施した「児童・生徒絵画コンクール」や「先進地視察先」「まちづくりゆんたくセッション」の内容などを掲載し、跡地利用に向けた取組みに関する情報提供ができた。

【今後の課題】

- ・ 市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、今後も継続して発行する必要がある。
- ・ 分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後も検討が必要である。

(4) ホームページの更新

1) 取組みのポイント

市外・県外に対して広く普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を周知するため、跡地利用に係る行政側からの情報や若手の会、NBミーティングの活動状況等の情報をまち未来課のホームページに掲載、更新を行った。

2) 主な情報更新内容

- ・本業務の内容
- ・今年度の取組み経過
- ・若手の会の活動状況（今年度の活動概要、活動年表の更新等）
- ・NBミーティングの活動状況（今年度の活動概要等）
- ・地権者支援情報誌「ふるさと」第46～47号をバックナンバーとして掲載
- ・まち未来だより第7号を掲載

3) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●幅広い情報提供に繋がった。

- ・ホームページ上での情報提供によって、市内の地権者や市民以外に、市外・県外の地権者や関心を持った住民等に対し、普天間飛行場跡地利用に関する取組み状況等を発信する事ができた。

【今後の課題】

- ・市外、県外の地権者を始めとする幅広い対象者へ、継続的に情報提供を行っていくため、ホームページを媒体とした情報発信を継続する必要がある。
- ・高齢の地権者も含めた誰もがホームページ上で必要とする情報を閲覧出来るよう、分かりやすさを重視した見せ方の工夫等について今後検討が必要である。